

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(設計用床応答スペクトルの作成方針)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別、 目録番号	図書名称	該当頁					
1	2021/12/8	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.38	各種の設計用床応答スペクトルの条件設定の考え方、適用範囲、運用目的が明確になっていないことから、それらを明確にして説明すること。	2022/4/20	設計用床応答スペクトルの条件設定の考え方、適用範囲、運用目的を補足説明資料に追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.1.3(通し頁P.5.7)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
2	2021/12/8	NS2-添2-001-07(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.5	今後の建物・構築物側の審査において、建屋の剛性等、地震応答解析における不確かさを考慮する項目が増える場合には、設計用床応答スペクトルの作成方針にも反映し、再度説明すること。	-	対応不要の認識		
3	2021/12/8	NS2-添2-001-07(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.6,7	「設計用床応答スペクトルⅠ以上となる床応答スペクトル」について、どのような場合に当該スペクトルを適用するか、考え方を説明すること。また、「設計用震度Ⅰ以上となる震度」について、どのような場合に当該震度を適用するか、考え方を説明すること。	2022/4/20	「設計用床応答スペクトルⅠ(又はⅡ)を上回る床応答スペクトル」、「設計用震度Ⅰ(又はⅡ)を上回る震度」を適用する場合について図書及び補足説明資料に追記しました。	NS2-添2-001-07改01「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.1.2(通し頁P.3.4) NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.1.3(通し頁P.5.7)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
4	2021/12/8	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.7	地震応答解析における積雪による不確かさの影響評価において、その影響評価に用いた積雪量等のパラメータを説明すること。	2022/4/20	影響評価に用いた積雪量等のパラメータを補足説明資料に追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.5(通し頁P.9)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
5	2021/12/8	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.10	設計用床応答スペクトルⅡの作成方法について、2.4項で作成した応答スペクトルの震度に1.5以上の係数を乗じて作成する旨説明しているが、1.5ではなく、1.5以上とする理由について説明した上で、1.5以上とする場合の具体的な作成手法を説明すること。	2022/4/20	設計用床応答スペクトルⅡに適用する係数の設定理由及び設定方法について補足説明資料に追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.8(通し頁P.12)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
6	2021/12/8	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.38	補足説明資料について、剛柔判定を行う基準として固有周期0.05秒を設定することの妥当性の説明と、固有周期0.05秒以下の応答の影響を考慮する設計手法の妥当性の説明とを整理して、再度説明すること。	2022/4/20	剛柔判定を行う基準に固有周期0.05秒を設定することの妥当性について、20Hzまでの領域を考慮した床応答スペクトルと50Hzまでの領域を考慮した床応答スペクトルの比較により確認することとし、記載を拡充しました。また、島根2号機の今回工認で適用する設計用床応答スペクトルとの比較についても参考として示すこととし、記載を修正しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」2.機器・配管の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について P.17~23, 44~49(通し頁P.50~56.77~82)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
7	2021/12/8	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.13	地震応答解析における積雪による不確かさの影響評価において、複数の基準地震動 $S_s$ が存在する中、 $S_s-D$ で代表して評価できる理由を説明すること。	2022/4/20	積雪による不確かさの影響評価について $S_s-D$ で代表して評価可能な理由を補足説明資料に追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について 別紙1-1(通し頁P.15)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
8	2021/12/8	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.25	表2 原子炉建物地震応答解析モデルの固有値解析結果(鉛直方向)について、1次モードを記載していない理由を説明すること。	2022/4/20	補足説明資料に鉛直方向の1次モードを記載していない理由を追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」2.機器・配管の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について P.3(通し頁P.36)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
9	2021/12/8	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.11	20Hz以上の高振動領域を考慮する場合の設計用床応答スペクトルについて、適用設備、応答解析における高振動数領域の考慮方法を説明すること。	2022/4/20	20Hz以上の高振動数領域の考慮する設計用床応答スペクトルについて適用設備、考慮方法を補足説明資料に追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.3.9(通し頁P.7.13)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別、 目録番号	図書名称	該当頁					
10	2021/12/10	NS2-添2-001-07(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.5	2.1.1(4)のうち「材料物性の不確かさを考慮した条件」という記載について、内容が明確になるように適正化して説明すること。	2022/4/20	「材料物性の不確かさ」が地盤物性の不確かさを表す旨を図書及び補足説明資料に明記しました。	NS2-添2-001-07改01「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.1他(通し頁P.3他) NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針」に関する補足説明資料1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について 目次他(通し頁P.4他)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
11	2021/12/10	NS2-添2-001-07(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.6	2.1.1(5)の記載について、1.5以上の係数を乗じて設定するものが設計用床応答スペクトルⅡであることが明確になるように適正化して説明すること。	2022/4/20	以下の通り図書の記載を適正化しました。設計用震度の記載においても同様に適正化しました。(下線部参照) (旧)(3)で求めた床応答スペクトルに対し、震度に1.5以上の係数を乗じて設定した設計用床応答スペクトルⅠに対して余裕のある条件を設計用床応答スペクトルⅡとする。 (新)(3)で求めた床応答スペクトルの震度に対して、全ての固有周期にわたって一律に1.5以上の係数を乗じて設定した条件を設計用床応答スペクトルⅡとする。適用する係数は設計用床応答スペクトルⅡの全ての固有周期における震度が設計用床応答スペクトルⅠ以上となるように設定する。	NS2-添2-001-07改01「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.1(通し頁P.3)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
12	2021/12/10	NS2-添2-001-07(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.10	図2-1のフローのうち「震度に1.5以上の係数倍」という表現について、記載を適正化して説明すること。	2022/4/20	図書の図2-1の記載を以下の通り適正化しました。 (旧)震度に1.5以上の係数倍 (新)震度に対して全固有周期にわたり一律に1.5以上の係数を乗じる	NS2-添2-001-07改01「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.7(通し頁P.9)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
13	2021/12/10	NS2-添2-001-07(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.16	原子炉格納容器は「炉心、原子炉圧力容器及び原子炉圧力容器内部構造物並びに原子炉本体基礎」の地震応答解析モデルに含まれることが明確になるように記載を適正化して説明すること。	2022/4/20	以下の通り図書の記載を適正化し、「炉心、原子炉圧力容器及び原子炉圧力容器内部構造物並びに原子炉本体基礎」の地震応答解析モデルに原子炉格納容器が含まれることを明確化しました。(下線部参照) (旧)炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体基礎の地震応答解析モデルには (新)炉心、原子炉圧力容器、原子炉内部構造物並びに原子炉格納容器及び原子炉圧力容器ベドスタル等の地震応答解析モデルには	NS2-添2-001-07改01「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.10(通し頁P.12)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
14	2021/12/10	NS2-添2-001-07(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.4.10	2.2.1本文中及びフロー図において、注記等で補足し、基本ケースに対する説明であることを明確にして説明すること。	2022/4/20	2.1.1本文、フロー図において基本ケースに対する説明であることを注記で記載しました。	NS2-添2-001-07改01「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.1.7(通し頁P.3.9)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
15	2021/12/10	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.9	誘発上下動を考慮した地震応答解析を行う構造物において、誘発上下動を考慮しない解析ケースによる鉛直方向応答時刻歴をどのように扱うか明確にして説明すること。	2022/4/20	誘発上下動を考慮しない解析ケースと誘発上下動を考慮した解析ケースを包絡して条件を作成することを補足説明資料に記載しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針」に関する補足説明資料1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.7(通し頁P.11)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
16	2021/12/10	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.9	接地率65%を上回る場合に誘発上下動を考慮する方針であることが明確になるように、記載を検討して説明すること。	2022/4/20	誘発上下動を考慮可能な地震応答解析モデルを採用している廃棄物処理建物の基準地震動Ssに対する地震応答解析について誘発上下動を考慮することが明確になるよう補足説明資料の記載を修正しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針」に関する補足説明資料1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.7(通し頁P.11)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
17	2021/12/10	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.24	JEAGを引用した図を大きくして説明すること。	2022/4/20	補足説明資料の図2について、図を大きく修正しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針」に関する補足説明資料2.機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について P.2(通し頁P.35)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
18	2021/12/10	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.36	表3 設計用床応答スペクトルを適用する設備について、検討対象配管の選定が明らかになるよう記載を検討し、充実して説明すること。	2022/4/20	表3の設計用床応答スペクトルを適用する設備について、検討対象配管の選定元である原子炉建物及びガンマ線遮蔽壁の設計用床応答スペクトルを適用し耐震評価を実施する配管を追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針」に関する補足説明資料2.機器・配管の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について P.15~17(通し頁P.48~50)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
19	2021/12/10	NS2-添2-001-07	耐震(作成方針)	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.10	「S次の質点の固有モード」という記載について、記載を適正化して説明すること。	2022/4/20	以下の通り図書の記載を適正化しました。 (旧)S次の質点の固有モード (新)質点におけるS次の固有ベクトルの成分	NS2-添2-001-07改01「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.9(通し頁P.11)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別、 目録番号	図書名称	該当頁					
20	2021/12/10	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.12	図6について、材料物性の不確かさを考慮したケースの床応答スペクトルも図示する等、包絡関係を明確にして説明すること。	2022/4/20	図6について、材料物性の不確かさを考慮したケースの床応答スペクトルも含めた図に修正しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.10(通し頁P.14)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
21	2021/12/10	NS2-補-027-01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.27	一般的に床応答スペクトルに関しては、図中に減衰定数を記載して説明すること。	2022/4/20	補足説明資料の床応答スペクトル図全般について、減衰定数を追記しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」2.機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について P.5,他(通し頁P.38他)	土建ヒア(2022/5/9)でも説明
22	2022/1/19	NS2-添2-002-01	耐震(計算書)(VI-2-2-1)	VI-2-2-1 炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書	P.302	大型機器系については設計用荷重Ⅱを策定していないことについて、設計用床応答スペクトルの作成方針の補足説明資料に反映して説明すること。	2022/4/20	大型機器系について設計用荷重Ⅰのみ設定している旨を補足説明資料に記載しました。	NS2-補-027-01改01「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について 別紙3-1(通し頁P.24)	コメント移動
23	2022/4/20	NS2-補-027-01改01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.81	燃料プールのスプレイス配管等の耐震評価について、動的解析(床応答スペクトルを用いた解析)に加えて動的震度を用いた静的解析を実施する理由を説明すること。また、残留熱除去系配管の耐震評価について、静的解析の結果が動的解析の結果を上回る理由を説明すること。	2022/10/7	動的解析法の妥当性確認において選定した燃料プールのスプレイス配管等の耐震評価について、静的解析を実施した理由を追加しました。また、残留熱除去系配管の耐震評価について、静的解析の結果が動的解析の結果を上回る理由を追加しました。	NS2-補-027-01改02「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」2.機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について P.15,57(通し頁P.54,96)	
24	2022/4/20	NS2-補-027-01改01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.82	地震応答解析(スペクトルモーダル解析)における20Hzを超える高振動数領域の考慮について、設計用床応答スペクトルの高振動数領域の設定方法とスペクトルモーダル解析における高振動数領域の設定方法をそれぞれ整理して説明すること。	2022/10/7	設計用床応答スペクトルを1~20Hzの範囲で設定し、柔構造の機器・配管の地震応答解析においては設計用床応答スペクトルに対して高振動数領域を考慮した入力震度を設定していることを明確化し、その設定方法を記載しました。また、今回の検討用に1~50Hzの範囲で作成した検討用床応答スペクトルの設定方法についても合わせて記載しました。	NS2-補-027-01改02「設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料」1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について P.13,10 2.機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について P.15,27~34,55,57~60(通し頁P.4,5,7,14,54,66~73,94,96~99)	
25	2022/5/9	NS2-添2-001-07改01	耐震(基本方針)(VI-2-1-7)	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.51~54	設計用Ⅰ又はⅡを上回る条件に関して説明すること。設計用床応答スペクトルについても同様に説明すること。	今回回答	設計用震度Ⅰ(又はⅡ)を上回る震度、設計用床応答スペクトルⅠ(又はⅡ)を上回る床応答スペクトルに関する記載を追記しました。	NS2-添2-001-07改03「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.62	10/7ヒアで資料反映済み、回答整理表反映漏れ
26	2022/5/9	NS2-添2-001-07改01	耐震(基本方針)(VI-2-1-7)	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.26	廃棄物処理建物の地震応答解析モデルについて、地盤3次元のモデル図も追加して説明すること。	今回回答	廃棄物処理建物地震応答解析モデルについて、地盤3次元のモデル図を追加しました。また、併せて図番号を修正しました。	NS2-添2-001-07改03「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.12,26~30	10/7ヒアで資料反映済み、回答整理表反映漏れ
27	2022/5/9	NS2-補-027-01改01	補足説明資料	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.11	誘発上下動を考慮可能な地震応答解析モデルが、ジョイント要素(付着力考慮)を用いた3次元FEMモデルであることが分かるように説明すること。	今回回答	廃棄物処理建物の地震応答解析モデルについては、誘発上下動を考慮可能なジョイント要素(付着力考慮)を用いた3次元FEMモデルを採用している旨の説明を追加しました。	NS2-補-027-01改03「設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について」P.9(通し頁P.11)	10/7ヒアで資料反映済み、回答整理表反映漏れ
28	2022/10/7	NS2-添2-001-07改02(比)	比較表(VI-2-1-7)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	—	設計用床応答スペクトルから設計用地震力を算出する方法を説明すること。	今回回答	設計用床応答スペクトルから設計用地震力を算出する方法を追記しました。	NS2-添2-001-07改03「VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針」P.9,10 NS2-添2-001-07改03(比)「先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)」P.12,13	

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(設計用床応答スペクトルの作成方針)

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
1	NS2-添2-001-07改01	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.3.8	当社記載ルールに合わせて以下の通り記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)全ての固有周期における震度が (新)すべての固有周期における震度が	2022/4/14	
2	NS2-添2-001-07改01(比)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.6.7	設計用条件について、「設計用Ⅰ以上」と「設計用Ⅰを上回る」、「設計用Ⅱを上回る」が混在していたことから、「設計用Ⅰ」、「設計用Ⅱ」、「設計用Ⅰを上回る」、「設計用Ⅱを上回る」の4種類に統一しました。比較表の備考欄及び補足説明資料においても同様に修正しました。	2022/4/14	
3	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.4	目次の脱字を修正しました。(下線部参照) (旧)2.5 料物性の不確かさ (新)2.5 材料物性の不確かさ	2022/4/14	
4	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.6.8~10	表1に屋外重要土木構造物を追加しました。 合わせて2.2を(1)建物・構築物と(2)屋外重要土木構造物に分割しました。	2022/4/14	
5	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.9	表3に排気筒を追加しました。	2022/4/14	
6	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.20~23	別紙2「減衰係数上限・下限ケースの設計用床応答スペクトルに対する影響について」を追加しました。 別紙追加に伴い、前回提出した別紙2を別紙3に修正しました。	2022/4/14	
7	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.24	地震応答計算書で使用している語句と合わせて、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)地震荷重 (新)設計用荷重	2022/4/14	
8	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.25~31	表2に第2.3回補正対象設備を追加しました。 合わせて表1に分類、設備例を追加しました。	2022/4/14	
9	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.36,42	図3及び図9について、マスキング枠と混同しないために黒枠を削除しました。	2022/4/14	
10	NS2-補-027-01改01	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.50	表4を追加し、検討対象設備に適用する設計用床応答スペクトルの種類を明確化しました。	2022/4/14	
11	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.3.4	設計用床応答スペクトルⅠ及びⅡ並びに設計用床応答スペクトルⅠ(又は設計用床応答スペクトルⅡ)を上回る床応答スペクトルを総称して、設計用床応答スペクトルと定義し、設計用震度Ⅰ及びⅡ並びに設計用震度Ⅰ(又は設計用震度Ⅱ)を上回る震度を総称して、設計用震度と定義することを明確にするため、記載を拡充しました。	2022/10/3	
12	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.8	対象の解析ケースを明確にするため、下記の記載を修正しました。(下線部参照) (旧)各原子炉施設の時刻歴解析 (新)各原子炉施設の <u>基本ケース</u> の時刻歴解析	2022/10/3	
13	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.8	設計用床応答スペクトルⅡ及び設計用震度Ⅱの係数の設定方法について記載を拡充しました。	2022/10/3	
14	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.9	設計用床応答スペクトルの作成方法のフロー図について、不確かさケースの時刻歴応答解析結果から地盤物性の不確かさを考慮した床応答スペクトルを作成することが分かるように修正しました。	2022/10/3	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
15	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.12,26~28	廃棄物処理建物地震応答解析モデルについて、地盤3次元のモデル図を追加しました。合わせて図番号を修正しました。	2022/10/3	
16	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.17,20	原子炉本体の鉛直方向地震応答解析モデル図について、原子炉建物地震応答解析モデル図と合わせて記載を統一しました。	2022/10/3	
17	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.18,19	原子炉本体の水平方向地震応答解析モデル図について、接続点(A,B,C)の標高を追記しました。	2022/10/3	
18	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.54	設計用震度Ⅰ(又はⅡ)を上回る震度、設計用床応答スペクトルⅠ(又はⅡ)を上回る床応答スペクトルに関する記載を追記しました。	2022/10/3	
19	NS2-添2-001-07改02	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.54	地震層せん断力係数Giについて、引用元を明確にするため、記載を拡充しました。	2022/10/3	
20	NS2-添2-001-07改02(比)	先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針)	P.15	東海第二にて設定している設備評価用床応答曲線と島根2号機の設計用床応答スペクトルⅠ等の作成方針の相違点について、備考欄の記載を拡充しました。	2022/10/3	
21	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.4,13,14	高振動数領域の入力震度の設定の位置づけを踏まえて4と5の記載順を入れ替えました。	2022/10/3	
22	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.4,9,10,20	減衰係数が排気筒の制振装置のものであることを明確にするため、記載を拡充しました。	2022/10/3	
23	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.7	弁の動的機能維持評価に適用するスペクトルについて、作成目的に関する記載を拡充すると共に、参考としている扱いを適正化しました。	2022/10/3	
24	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.11	廃棄物処理建物の地震応答解析モデルについては、誘発上下動を考慮可能なジョイント要素(付着力考慮)を用いた3次元FEMモデルを採用している旨の説明を追加しました。	2022/10/3	
25	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.12	設計用震度Ⅱの作成方法について、設計用床応答スペクトルⅡと同様の方法で設定する旨の記載を追記しました。	2022/10/3	
26	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.12	図4において、係数1.5を乗じて作成した床応答スペクトルが設計用床応答スペクトルⅠを包絡しない場合には、1.5を上回る係数を設定する旨の記載を拡充し、また、図4の凡例を適正化しました。	2022/10/3	
27	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.24	各設計用床応答スペクトルの適用の考え方について、基本的に「設計用床応答スペクトルⅡ」を用いるが、評価結果が厳しい場合や過去の評価が活用可能なことを確認した場合など設備ごとに適切に使い分ける旨の記載を追記しました。	2022/10/3	
28	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.24,25	表1のタイトル及び文中の記載について、同一の耐震計算書で複数種類の設計用地震力を使用する場合の分類であることが分かるように記載を修正しました。	2022/10/3	
29	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.26~37	第4.5回補正の図書を表2に追記しました。	2022/10/3	
30	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.41,42	実機に対する適用性の検討結果において、変位応答スペクトルにおいては固有周期0.05秒で概ね収斂していることから、剛柔判定を行う閾値として固有周期0.05秒が適用可能であることを示す旨の記載を拡充しました。	2022/10/3	
31	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.48,49	5.(1)a.~e.の各項目にタイトルを設定しました。	2022/10/3	
32	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.48	部材力は応答変位に剛性を乗じて算出する旨の説明を追加すると共に、5.(2)を参照するように記載を追記しました。	2022/10/3	
33	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.54~99	「5.(3) 動的解析法の妥当性確認」について、資料構成を全体的に見直しました。	2022/10/3	
34	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.54	動的解析法の妥当性確認フローを図12として追加しました。	2022/10/3	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
35	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.55	「5.(3) 動的解析法の妥当性確認」の資料構成の見直しに伴い、以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(a) 20Hz 近傍に卓越する応答を有する床応答スペクトルを適用する設備 (新)(a) 20Hz 近傍に卓越する応答を有する床応答スペクトルを適用する設備の抽出	2022/10/3	
36	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.55	床応答スペクトルについて、以下の誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)設計用床応答スペクトル (新)床応答スペクトル	2022/10/3	
37	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.57～64	第4.5回補正に係る配管を表3に追記しました。	2022/10/3	
38	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.65	「5.(3) 動的解析法の妥当性確認」の資料構成の見直しに伴い、以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(b) 1 次固有振動数が20Hz 近傍に有する設備 (新)(b) 1 次固有振動数が20Hz 近傍に有する設備の抽出	2022/10/3	
39	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.65	動的解析法の妥当性確認における検討対象設備について、選定理由を表4として追加しました。	2022/10/3	
40	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.66,68	各検討対象設備に適用する床応答スペクトルの種類及び解析ケースを表6として追加すると共に、1.2ZPA による静解析に適用する設計用震度の場合も同様であることの記載を追記しました。	2022/10/3	
41	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.68	固有周期の計算間隔について、VI-2-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」では定義していない固有周期0.02(s)～0.05(s)における計算間隔については、固有周期0.05(s)～0.1(s)と同じ計算間隔を用いる旨の記載を追記しました。	2022/10/3	
42	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.69～73	図14～図16の地震応答解析に適用する床応答スペクトルについて、凡例等を明瞭にするため、修正しました。	2022/10/3	
43	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.77,83,90	各検討対象設備における刺激係数の注記について、耐震計算書との記載統一のため、以下のとおり記載を適正化しました。 (旧)刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。 (新)モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。	2022/10/3	
44	NS2-補-027-01改02	設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料	P.99	20Hzまでの領域を考慮した手法を用いた解析は、検討用床応答スペクトルを用いた解析と同等、もしくは静的解析結果により、包絡することができる旨の記載を拡充しました。	2022/10/3	
45	NS2-添2-001-07改03	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.1,2,6	設計用床応答スペクトル及び震度について、基本ケース及び不確かさケースを包絡させて設定する旨を追記しました。	2022/12/6	
46	NS2-添2-001-07改03	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.6	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)設計用床応答スペクトル I は、基準地震動S <sub>s</sub> 又は弾性設計用地震動S <sub>d</sub> による各原子炉施設の基本ケースの時刻歴応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトルを固有周期の・・・ (新)設計用床応答スペクトル I は、基準地震動S <sub>s</sub> 又は弾性設計用地震動S <sub>d</sub> による各原子炉施設の基本ケースの時刻歴応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトルに対し、固有周期の・・・	2022/12/6	
47	NS2-添2-001-07改03	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.6	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)設計用震度 I は、基準地震動S <sub>s</sub> 又は弾性設計用地震動S <sub>d</sub> による各原子炉施設の基本ケースの時刻歴応答解析から得られる応答波の最大値(最大応答加速度)に材料物性の・・・ (新)設計用震度 I は、基準地震動S <sub>s</sub> 又は弾性設計用地震動S <sub>d</sub> による各原子炉施設の基本ケースの時刻歴応答解析から得られる応答波の最大値(最大応答加速度)に対し、材料物性の・・・	2022/12/6	
48	NS2-添2-001-07改03	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.7	図2-1のフローについて、意図を明確にするため、以下のとおり修正しました。(下線部参照) (旧)応答スペクトル解析 (新)応答スペクトル作成	2022/12/6	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
49	NS2-添2-001-07改03	VI-2-1-7 設計用床応答スペクトルの作成方針	P.9	地震応答解析における振動数範囲は、1～50Hzまで考慮することを明確にしました。	2022/12/6	
50	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	表紙	剛柔判定に関する章を別の補足説明資料として分割したことに伴い、図書名称を以下のとおり修正しました。 (下線部参照) (旧)設計用床応答スペクトルの作成方針に関する補足説明資料 (新)設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	2022/12/6	
51	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.2	剛柔判定に関する章を別の補足説明資料として分割すると共に、分割前の各補足説明資料を示した目次を削除しました。	2022/12/6	
52	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.2,4～17	設計用床応答スペクトルの作成方法と適用方法の区別を資料全体で明確にすると共に、柔構造の機器・配管の地震応答解析に適用する際の運用方法として、高振動数領域を考慮した入力震度を設定していることを明確化しました。	2022/12/6	
53	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.2,8,12,23	以下の誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)制振装置 (新)制震装置	2022/12/6	
54	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.3	概要において、地震応答解析の方法(考慮する振動数範囲等)を追記しました。	2022/12/6	
55	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.3,16	地震応答解析における振動数範囲は、1～50Hzまで考慮することを明確にしました。	2022/12/6	
56	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.4,5,7,8	概要に記載していた高振動数領域の内容等について、記載位置を修正しました。	2022/12/6	
57	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.5	注記*2を追加したことに伴い、以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)注記* (新)注記*1	2022/12/6	
58	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.5	以下の誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)弁の動的機能維持評価に適用するために作成した床応答スペクトルをあわせて示す。 (新)弁の動的機能維持評価に適用するために作成した床応答スペクトルを併せて示す。	2022/12/6	
59	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.5	弁の動的機能維持評価用床応答スペクトルを設定している理由について、記載を拡充しました。	2022/12/6	
60	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.6	応答スペクトル(基本ケース)及び応答スペクトル(不確かさケース)の定義を明確化し、図1内の名称についても、統一しました。	2022/12/6	
61	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.7,9,10	追而としていた屋外重要土木構造物の地震応答解析における解析ケース(表4)について、「防波壁(波返重力擁壁)」を除いて追記しました。	2022/12/6	
62	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.8	ケース4, 5, 6は機器・配管系の設計用床応答スペクトル作成においては考慮しないことを、注記として追記しました。	2022/12/6	
63	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.15	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)機器・配管系の耐震評価においては、・・・ (新)柔構造の機器・配管系の耐震評価においては、・・・	2022/12/6	
64	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.16	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)柔構造の機器・配管の耐震評価(弁の動的機能維持評価を除く)において、より保守的な評価を行うため、地震応答解析における20Hz超の領域の入力震度を以下の方法にて設定・・・ (新)柔構造の機器・配管の地震応答解析(弁の動的機能維持評価を除く)において、より保守的な評価を行うため、高振動数領域を考慮した入力震度を以下の方法にて設定・・・	2022/12/6	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
65	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.16	以下の記載を3.2項の文末に移動しました。 「なお、弁の動的機能維持評価においては以下の方法で設定した入力震度を適用せず、1～50Hzの周期範囲において計算して作成した床応答スペクトルを適用して評価する(図6③及び補足-027-05「弁の動的機能維持評価について」参照)。」	2022/12/6	
66	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.16	高振動数領域を考慮した設計震度の妥当性確認結果の引用を記載しました。	2022/12/6	
67	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.16	高振動数領域を考慮した入力震度の設定において、参照した出典を追記しました。	2022/12/6	
68	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.16	高振動数領域を考慮した入力震度の設定方法については、「図6 高振動数領域を考慮した入力震度の設定方法」を参照先とすることを追記しました。	2022/12/6	
69	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.17	「図6 高振動数領域を考慮した入力震度の設定方法」について、拡幅、直線補完、20Hz～22.2Hzの範囲の設定方法に関する記載を図中に拡充しました。	2022/12/6	
70	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.18	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)積雪ケースの地震応答解析結果から原子炉建物代表フロア(EL42.8m, 15.3m, 1.3m)における床応答スペクトル及び最大応答加速度 (新)原子炉建物地震応答解析モデルにおける積雪ケースの地震応答解析結果から_原子炉建物代表フロア(EL42.8m, 15.3m, 1.3m)における床応答スペクトル及び最大応答加速度	2022/12/6	
71	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.18	建物への積雪ケースの影響を検討した原子炉建物の補足説明資料への引用を追記しました。	2022/12/6	
72	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.18,23	記載を明確にするため、以下の修正をしました。(下線部参照) (旧)・・・最大応答加速度を作成し・・・ (新)・・・最大応答加速度を算出し・・・	2022/12/6	
73	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.23	排気筒への減衰係数上限ケース及び減衰係数下限ケースの影響を検討した排気筒の補足説明資料への引用を追記しました。	2022/12/6	
74	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.23	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)減衰係数上限・下限ケースの地震応答解析結果から排気筒における床応答スペクトル及び最大応答加速度 (新)排気筒地震応答解析モデルにおける減衰係数上限・下限ケースの地震応答解析結果から_排気筒における床応答スペクトル及び最大応答加速度	2022/12/6	
75	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.27	設計用荷重を適用する対象を追記しました。	2022/12/6	
76	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.29～41	「分類等」が表1における分類等を指していることが分かるように、記載を適正化しました。	2022/12/6	
77	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.29～41	列の名称と列の内容が整合するよう以下のとおり修正しました。(下線部参照) (旧)設備を設置する施設名称 (新)設備評価に適用する解析モデル名称(建物・構築物等)	2022/12/6	
78	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.29～41	列の名称と列の内容が整合するよう以下のとおり修正しました。 (旧)大型機器系 (新)原子炉本体	2022/12/6	



No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
79	NS2-補-027-01改03	設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について	P.29～41	第6回補正に係る設備を追記しました。	2022/12/6	
80	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	目次	剛柔判定に関する章を別の補足説明資料として分割したため、分割前の各補足説明資料を示した目次を削除しました。	2022/12/6	
81	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	目次 他	「5.(3)動的解析法の妥当性確認」について、以降の項番を6.として修正すると共に、目次を修正しました。	2022/12/6	
82	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.3	JEAGと固有周期の収斂に関する記載について、重複する記載を削除しました。	2022/12/6	
83	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.9	4.の検討内容の引用を追記しました。	2022/12/6	
84	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.11	以下の誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)応力が小さくなるため。高振動数領域で (新)応力が小さくなるため。高振動数領域で	2022/12/6	
85	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.15	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)20Hzの領域まで作成した設計用床応答スペクトルを用いた地震応答解析結果及び計算範囲外の高振動数領域に対する配慮として実施している1.2ZPAによる静解析の結果と比較する。 (新)20Hzの領域まで作成した設計用床応答スペクトルを用いた地震応答解析結果及び計算範囲外の高振動数領域に対する配慮として実施している1.2ZPAによる静解析の結果の包絡値と比較する。	2022/12/6	
86	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.15,16	図12のタイトルについて、対象を明確にするため、以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)動的解析法の妥当性確認フロー (新)スペクトルモデル解析を適用する設備の動的解析法の妥当性確認フロー	2022/12/6	
87	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.15,56,58～61	6.項の検討目的及び検討結果に、高振動受数領域を考慮した入力震度の設定方法の妥当性確認に関する記載を追記しました。合わせて表14～17へ「高振動数領域を考慮した手法」の欄を追加し、本文で参考扱いとしていた記載を修正しました。	2022/12/6	
88	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.16	検討に適用する床応答スペクトルへの紐付けを、フロー図中に追記しました。	2022/12/6	
89	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.16,28,29,31～35,56,58～61	6.項においては、高振動数領域を考慮した入力震度を「高振動数領域考慮床応答スペクトル」として名称を統一しました。	2022/12/6	
90	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.17,18	以下の記載を、6.2a.項の次段落の位置へ移動しました。 「1次固有振動数が20Hz近傍に有する設備の抽出 原子炉建物に設置される配管系において、・・・を選定する。 上記のa.及びb.の検討により抽出した検討対象設備を表3に示す。」	2022/12/6	
91	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.19～27	表4に「検討対象」の欄を追加し、検討対象設備には「○」を記載するとともに、第6回補正に係る配管モデルを追記しました。	2022/12/6	
92	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.28	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)検討用床応答スペクトル、設計用床応答スペクトル及び高振動数領域を考慮した入力震度の設定方法の概要 (新)設計用床応答スペクトル、高振動数領域を考慮した入力震度(以下「高振動数領域考慮床応答スペクトル」という)の設定方法及び検討用床応答スペクトルの概要	2022/12/6	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
93	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.28	以下の記載位置を見直しました。 「高振動数領域考慮床応答スペクトルの設定方法は、上記の設計用床応答スペクトルについて、補足-027-01「設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について」における「3.2 地震応答解析における高振動数領域を考慮した入力震度の設定方法」に従い高振動数領域を考慮して設定する。」	2022/12/6	
94	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.28	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)なお、設計用床応答スペクトルの作成方法は「1.設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について」 (新)なお、設計用床応答スペクトルの作成方法は、補足-027-01「設計用床応答スペクトルの作成方法及び適用方法について」	2022/12/6	
95	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.29	検討に適用する各床応答スペクトルの振動数範囲と、地震応答解析において考慮する振動数範囲の区別を明確にしました。	2022/12/6	
96	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.29	地震応答解析における振動数範囲を明確に記載しました。	2022/12/6	
97	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.29	図中の検討に適用する床応答スペクトルの線種及び色を修正しました。	2022/12/6	
98	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.29	高振動数領域を考慮した入力震度の設定方法について、拡幅や直線補完に関する記載を拡充しました。	2022/12/6	
99	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.29,31～35, 56,58,60,61	「設計用床応答スペクトル」を①、「高振動数領域考慮床応答スペクトル」を②、「検討用床応答スペクトル」を③として、No.を付番しました。	2022/12/6	
100	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.32,33	残留熱除去系配管(モデルNo.RHR-PD-8)について、50Hz まで計算した床応答スペクトル(拡幅あり)を22.2Hz 以下に適用し、22.2Hz を超える領域は直線補完したスペクトルを保守的に工認評価に適用していることを追記しました。	2022/12/6	
101	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.37,40～42, 44,46～49, 51,53～55	解析モデルの図の向きを統一しました。	2022/12/6	
102	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.56	以下の記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)設計用床応答スペクトルを用いた地震応答解析結果、静的解析結果及び検討用床応答スペクトルを用いた地震応答解析結果を示す。また、参考として、高振動数領域を考慮した入力震度を用いた地震応答解析結果も示す。 (新)設計用床応答スペクトルを用いた地震応答解析結果及び静的解析結果とそれらの包絡値、高振動数領域考慮床応答スペクトルを用いた地震応答解析結果並びに検討用床応答スペクトルを用いた地震応答解析結果を示す。	2022/12/6	
103	NS2-補-027-15	機器・配管系の耐震設計における剛柔判定を行う固有周期について	P.58	以下のとおり、記載を修正しました。(下線部参照) (旧)応答が最大応力となる (新)応答が、最大応答となる	2022/12/6	